

輝く功績

第74回岐阜新聞大賞受賞者

②

水素研究で社会に貢献

有機合成化学と医薬品化学、環境化学を研究フィールドに、研究成果を実用化にもつなげ、社会に還元してきた。近年は次世代エネルギーとしての水素製造に関わる研究もあり、地球温暖化対策への貢献も期待される。「一緒にやってきた学生や職員がいなければ、これまでの研究はなかった」とほほ笑む。

米国製薬会社で研究していた30代の頃、想定していた反応が進まなかったことを調べたのが契機となって、現在の研究のベースとなる官能基選択的固体触媒研究の端緒を見つけた。

1995年に岐阜薬科大に赴任し、同触媒研究を開始。反応選択性の高い新たな接触還元触媒を15種類以上開発し、約半数が試薬として実用化されている。「当初は一つ触媒を作ったからこれで終わりかと思っていた」と笑うが、多方面に展開していく。積み上げた研究と新たな発想で始まった、次世代エネルギーとしての水素プロジェクトがその一つ。複数のステンレス製ボールを衝突させるボールミルを利用して、水から直接水素を取り出す水素製造法や、マイクロ波を照射して有機化合物から効率よく水素を抽出する方法を研究。地球温暖化対策としての水素の可能性を見据え「昔と違って、現代は使った物をどうやって再生するかを考えなければならぬ時代」と話す。

岐阜薬科大学副学長

佐治木 弘尚氏

学術部門

研究の過程で多くの企業とも関わってきた。「多様な企業との連携は大切」と話し、製薬会社はもちろん、化学や金属メーカーなどと、実用化や研究に必要な実験機器の開発などにも取り組んできた。今年4月からは、学内に大手機械メーカーと新たに「共同研究講座」を立ち上げ、水から水素を取り出すシステムの

も関わってきた。「多様な企業との連携は大切」と話し、製薬会社はもちろん、化学や金属メーカーなどと、実用化や研究に必要な実験機器の開発などにも取り組んできた。今年4月からは、学内に大手機械メーカーと新たに「共同研究講座」を立ち上げ、水から水素を取り出すシステムの



「化学はチームで進める学問」と語る佐治木弘尚氏（岐阜市大学西、岐阜薬科大）

【さじき・ひろなお】1959年生まれ。長野市出身。83年岐阜薬科大卒業、89年同大薬学博士。91年米マサチューセッツ工科大博士研究員、92年米Metasyn社グループリーダー、岐阜薬科大助教授、教授などを経て21年から同大副学長。岐阜市在住。64歳。